【本尊　不空羂索観音】

「ふくうけんじゃくかんのん」。サンスクリットでは「必ず獲物を捕らえる縄」という意味のアモーガパーシャ。アモーガは「空しくない（不空）」の意。パーシャは古代インドで狩猟に使った投げ縄のことで、漢訳では羂（わな）の索（つな）と解して羂索と表記した。勝れたパーシャが必ず鳥や魚を捕らえるように、人々をあまさず救う菩薩の羂索。
ゆえに不空羂索観音という。

【寿老人】

白髪で杖を持ち、千五百年生きているといわれる鹿を連れており、左手には長寿福徳の象徴である桃の実を持つ。
中国道教の南極星の化身だといわれ、長寿延命・諸病平癒・富貴繁栄の御利益がある。

【鎮守社】「三社明神」

社殿は春日造りで、
春日明神を中心に八幡大菩薩・天照大御神の三社である。この三社信仰は、古来より錦御旗に揮毫される三神号である。

三社の御神徳・御利益は、

春日大明神（かすがだいみょうじん）
子孫繁栄・交通安全・商売繁盛・立身出世・恋愛成就

八幡大菩薩（はちまんだいぼさつ）
武運長久・仏法守護・競事勝利・受験合格・安産祈願

天照太神宮（てんしょうだいじんぐう）
国家安穏・世界平和・五穀豊穣・家内安全・心願成就

【神鹿】

共に鹿を神使とする春日明神と寿老人が境内に祀られ、又、当院の本尊、不空羂索観音は春日明神の本地仏（本来の姿である仏様）であるところから、神鹿（狛鹿）として安置している。

お守り

不空羂索観音菩薩 救済加護お守り

もれなく人々を救済加護し、困難・苦難・災難から救い、病なく財宝を得、人々に敬われるなど「不空羂索観音」の慈悲を象徴するお守りです。

福ふくろうお守り

七福神寿老人にちなんで長寿な梟（ふくろう）を、福久老と書いて、幾久しく幸福に過ごせますようにと、また、福籠と書いて福がこもる、不苦労と書いて苦労知らずなど、縁起がいいお守りです。赤・紺・黄の3色があります（袋の中から可愛いふくろうが顔をのぞかせています）。

福かめお守り

健康長寿が祈願された「福かめ守り」です。